

「白い御座の裁き」

黙 20 : 7～15

1. はじめに

(1) これまでの復習

①大患難時代を扱っているのは6～18章。

②再臨を扱っているのは19章。

③千年王国を扱っているのは20章。

*20 : 1～6 千年王国

*20 : 7～10 サタンの反乱

*20 : 11～15 白い御座の裁き

④21章に入ると、新しい天と新しい地が登場する。

*黙示20章がなければ、メシア的王国が永遠の御国だと誤解してしまう。

*旧約預言では、メシア的王国が永遠の御国のように描写されている。

*黙示20章は、メシア的王国が千年間続くと教えている。

*その先に、永遠の御国が用意されている。

⑤では、どうしてサタンは千年の終わりに解放されるのか。

⑥聖書が教える死とは、何か。

2. アウトライン

(1) サタンの反乱 (7～10 節)

(2) 白い御座の裁き (11～15 節)

3. 結論

(1) 旧約時代における死

(2) 新約時代における死

(3) 千年王国における死

白い御座の裁きについて学ぶ。

I. サタンの反乱 (7～10 節)

1. 7～8 節

Rev 20:7 しかし千年の終わりに、サタンはその牢から解き放され、

Rev 20:8 地の四方にある諸国の民、すなわち、ゴグとマゴグを惑わすために出て行き、戦いのために彼らを召集する。彼らの数は海べの砂のようである。

(1) 千年王国の最後に、サタンが底知れぬ所から再び解き放たれる。

- ①その理由は、再び人類を試すためである。
- ②神は、人類がいかにかに墮落しているかを証明される。

(2) 千年王国にも罪は存在する。

- ①千年王国が始まった時点では、未信者は存在しない。
- ②千年王国では、ほぼ理想に近いような生活環境が実現する。
- ③しかし、新しく誕生した者たちの中に未信者が出てくる。
- ④千年王国の終わり近くには、信仰を持っていない人々の数が増加する。
- ⑤それらの人々を試すために、サタンが解き放たれる。

(2) サタンは、世界の諸国民を惑わす。

- ①サタンの性質は変わらない。欺きと偽りの業を行う。
- ②「ゴグとマゴグ」は、その惑わしが広範囲に広がることを表わしている。
- ③サタンに従う罪人たちの数は、海辺の砂のようになる。
- ④この戦いは、エゼ38:1~39:16に預言されている戦いに似ている。
 - *エゼキエル書に預言された戦いは、大患難時代の直前に起こる。
 - *ここに書かれた戦いは、千年王国の最後に起こる。
 - *ともに、イスラエルの民への攻撃がその内容である。
 - *ここでは、「ゴグとマゴグ」という言葉が比喩的に用いられている。

2. 9節

Rev 20:9 彼らは、地上の広い平地に上って来て、聖徒たちの陣営と愛された都とを取り囲んだ。すると、天から火が降って来て、彼らを焼き尽くした。

(1) サタンと異邦人の軍勢は、イスラエルの民に攻撃をしかける。

- ①エルサレムは、キリストによる統治のヘッドクォーターである。
- ②千年間その状態が続く(イザ2:1~5)。

(2) しかし、サタンとその軍勢は、突如降ってくる天からの火で焼き尽くされる。

- ①キリストはただちにその反乱を鎮圧する。

3. 10節

Rev 20:10 そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。

(1) サタンは、「火と硫黄との池」に投げ込まれ、そこで永遠の苦しみを受ける。

- ①そこには、獣(反キリスト)もにせ預言者も、ともにいる。
- ②悪霊どもも、「火と硫黄との池」に投げ込まれる(マタ25:41)。
 - *千年王国の期間、悪霊どもは2箇所閉じ込められる。
 - *バビロンとエドム(黙18:2、イザ34:8~16)
- ③サタンのさばきと並行して、キリストに一切の権威が与えられる。

(2) 1コリ15:24~28

1Co 15:24 それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、国を父なる神にお渡しになります。

1Co 15:25 キリストの支配は、すべての敵をその足の下に置くまで、と定められているからです。

1Co 15:26 最後の敵である死も滅ぼされます。

1Co 15:27 「彼は万物をその足の下に従わせた」からです。ところで、万物が従わせられた、と言うとき、万物を従わせたその方がそれに含まれていないことは明らかです。

1Co 15:28 しかし、万物が御子に従うとき、御子自身も、ご自分に万物を従わせた方に従われます。これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです。

- ①すべての敵が、キリストの支配に服す。
- ②最後の敵は、サタンではなく、死である。
- ③千年王国でも死は存在する。
- ④人類に死をもたらした張本人は、サタンである。
- ⑤そのサタンが滅びたとき、死もまた滅ぼされる。
- ⑥御子キリストは、御国を父なる神にお渡しになる。
 - *キリストの支配は、すべての敵が滅びるまでと決められている。
- ⑦こうして、神がすべてにおいてすべてとなられる。

II. 白い御座の裁き(11~15節)

1. 11節

Rev 20:11 また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。

(1) 千年王国が終わると白い御座のさばきが始まる。

- ①これは、新しい天と新しい地が出現するための準備でもある。
- ②「そこに着座しておられる方」とは、イエス・キリストである。
- ③キリストにすべてのさばきが委ねられている。

Joh 5:22 また、父はだれをも裁かず、裁きは一切子に任せておられる。

(2) 「地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった」

①創世記1章以来存在していた地と天とが消え去るということである。

②その次に出現するのが、新しい天と新しい地である。

2. 12節

Rev 20:12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。

(1) 白い御座のさばきでは、あらゆる時代の罪人たちがさばかれる。

①信者がこのさばきを受けることはない。

②さばきのために、何種類かの書物が開かれる。

(2) 「数々の書物」

①各人の行ないが記録された書物である。

②罪人は、この書物に書かれた内容によってさばかれる。

③このさばきには、弁護士はいない。

(3) 「いのちの書」

①この地上に誕生したすべての人の名が書き記されたものである。

②罪人のままで死んだ人の名は、その書からは消し去られる。

* (詩 139 : 16、69 : 28、黙 3 : 5 参照)

③罪人のさばきは、「いのちの書」からその名が消されていることを確認した後、「数々の書物」に記された内容に従って行なわれる。

(4) 「小羊のいのちの書」

①これは、信者の名が記されたものである。

②信者の名は、天地創造の前からその書に記されている

* (黙 13 : 8、17 : 8 参照)

(5) 罪人のさばきには、軽重がある。

①どれだけの啓示が与えられていたか。

②どのような生活をしてきたか。

*（マタ 11：20～24、ルカ 12：47～48、ヨハ 19：11 など参照）

3. 13 節

Rev 20:13 海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのおの自分の行いに応じてさばかれた。

(1) 白い御座のさばきに続いて、第二の復活についての説明がなされる。

① 「海はその中にいる死者を出し、」

*からだは、どこで、どのような状態で散らばっていても、復活する。

② 「死とハデスも、その中にいる死者を出した」

*死んだからだと魂が、結合する。死とは墓のことである。

(2) 第二の復活とは、すべての未信者の復活のことである。

①まず、反キリストの復活がある。

*反キリストの復活は、未信者たちの復活の初穂となる。

②次に、白い御座のさばきの前に、あらゆる時代の未信者たちが復活する。

*反キリストの復活と未信者たちの復活の間には、千年間の隔りがある。

*さらに、第一の復活と第二の復活の間にも、千年間の隔りがある。

③未信者の肉体とたましいが合体して、白い御座のさばきを受ける。

④第1の復活（信者の復活）は、神からの栄誉と祝福を受けるためのものである。

⑤第2の復活（未信者の復活）は、神からのさばきを受けるためのものである。

⑥彼らは、自らの行ないに応じてさばかれる。

4. 14～15 節

Rev 20:14 それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。

Rev 20:15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

(1) 最後の敵は、死である。

①1 コリ 15：26

1Co 15:26 最後の敵である死も滅ぼされます。

② 「死とハデス」とは、火の池に投げ込まれる。

*ハデスは、死が宿る場所である。

(2) 「いのちの書に名のしるされていない者」とは、未信者である。

①彼らは、火の池に投げ込まれる。

② 「第二の死」とは、神との永遠の分離である。

結論：

1. 旧約時代の死

- (1) 死者の肉体とたましいとは分離し、肉体は墓に葬られた。これが、第一の死。
 - ② 死人のたましいは、「シオール」（ヘブル語）に行く。
 - ① 新改訳聖書では「よみ」
 - ② 口語訳聖書と新共同訳聖書では「陰府」
 - (3) 「シオール」は、ギリシヤ語で「ハデス」となる。
 - ① 新改訳聖書では「ハデス」
 - ② 口語訳聖書では「黄泉」
 - ③ 新共同訳聖書では「陰府」
 - (4) 旧約時代、この場所は二つの場所に分かれていた。
 - ① その間を行き来することは、不可能であった（ルカ 16：19～31 参照）。
 - ② 義人のたましいが行く場所は、「アブラハムのふところ」、あるいは、「パラダイス」（ルカ 23：43）と呼ばれている。
 - ③ 罪人のたましいが行く場所は、一般的に「地獄」と呼ばれる場所である。

2. 新約時代の死

- (1) 第一の死を経験するのは、新約時代も同じである。
- (2) 義人のたましいは、ただちに天に上げられる（2 コリ 5：8、ピリ 1：23）。
- (3) キリストの死と復活がハデスの状況を一変させた。
 - ① 死によってキリストの肉体は墓に葬られた。
 - ② そのたましいは、「パラダイス」に行き、贖いが完了したことを宣言した。
 - ③ 昇天に際して、キリストは「パラダイス」にとどまっていたすべてのたましいを天に引き連れて行かれた（エペ 4：8～10）。
 - ④ キリストの昇天以降、ハデスには「苦しみ領域」だけが残っている。
 - ⑤ 未信者のたましいは、ハデスの苦しみ場所に行く。
- (4) 第二の復活によって未信者のからだたましいとは再び結合する。
 - ① その結果、ハデスの苦しみ場所（地獄）も消滅することになる。
- (5) 白い御座のさばきの後、未信者は「火の池」に投げ込まれる。
 - ① これが第二の死である。

3. 千年王国における死

(1) イザ 65：20 の訳文の比較

Isa 65:20 そこには、もはや若死にする者も／年老いて長寿を満たさない者もなくなる。百歳で死ぬ者は若者とされ／百歳に達しない者は呪われた者とされる。（新改訳）

Isa 65:20 わずか数日で死ぬみどりごと、おのが命の日を満たさない老人とは、もはやその中にいない。百歳で死ぬ者も、なお若い者とせられ、百歳で死ぬ者は、のろわれた罪びととされる。(口語訳)

(2) イザ 65 : 20 の意味

- ① 幼くして死ぬ者はいない。
- ② 死ぬ場合でも、その年齢は 100 歳である。
- ③ 死ぬのは罪人だけである。「のろわれた罪びと」

(3) 千年王国における生と死のまとめ

- ① 生まれつきのからだで千年王国に入るのは、ユダヤ人と異邦人の信者だけ。
 - * ユダヤ人は、メシアの再臨の前に全員が救われる。
 - * 山羊の異邦人は殺され、羊の異邦人だけが千年王国に入る。
- ② サタンの活動がなくても、地上に罪人が増える。
- ③ 千年王国においても、救いは信仰と恵みによる。
 - * 救いの土台は、キリストの十字架の死である。
- ④ 罪人は、信じるまでに 100 年の期間が与えられている。
 - * 信じなければ、100 歳で死ぬ。
- ⑤ 信じれば、千年王国において死ぬことはなくなる。
 - * 聖書には、千年王国の聖徒の復活は出てこない。
- ⑥ 千年王国においては、ユダヤ人の不信者は存在しない。
 - * エレ 31 : 31~34 の新しい契約